

草木染め

草木染めとは、植物をすり潰したり煮出して作った染汁に織物を漬けて自然な風合いを発色させるもので、身近な植物を利用したメルヘンな工芸です。当公園では、園内で育てたタデ科のアイとマリーゴールドの花がらを使った体験教室を夏と秋に行いました。

アイを使った藍染は、従来はジーパンの生地を染めたものがイメージされますが、これはアイを発酵させた染汁で作ります。今回は、摘み取ったアイをすり潰した染汁を使ったので、淡い青色に染まりました。



作業の第1歩は、アイの摘み取りです。秋になると花が咲き出すので、夏が適期になります。

摘んだ葉はミキサーにかけて、すり潰した状態にしました。この時の染汁は深緑色です。ここに絹のストールを10分ほど漬け込みます。

取り出したストールを水洗いするのですが、この段階ではまだ青くなっていません。ところが、洗い終わると淡い青色に染まっていました。

特に発色剤などは使っていませんが、空気と反応して青い色に染まっています。とても幻想的な色合いです。



秋には、咲き終わったマリーゴールドの花がらを使った体験教室を行いました。

材料は、園内の花壇やプランターで咲いていたマリーゴールドの花がらを乾燥させたものです。これを20分ほど煮出して作った染汁に絹のストールを漬けて、さらに20分ほど弱火で煮ます。

水で洗った後に、金属イオンを作用させて色を定着させます。よく使われるミョウバンですとアルミニウムが作用して黄色に染まるそうです。今回は、秋らしい発色とするために、チタンの定着液を使用しました。

チタンが作用すると淡いオレンジ色のストールに染め上がりました。

さっそく、仕上がったばかりのオレンジ色のストールを首に巻き付けて、喜んでいただけました。



夏の体験教室はお盆の時期に開催したため、参加者が少なく残念な思いをしました。しかし、秋の体験教室は、受付開始とともに希望者が殺到し、数日で枠がいっぱいになってしまいました。

参加できなかった方には大変申し訳ありませんでした。